［地域総研紀要　14巻１号, P61－70（2016）（研究ノート）］

# 五島列島における潜伏キリシタン墓地に関する分布の基礎的研究*

加　藤　久　雄**、野　村　俊　之***

# Fundamental research of hidden Christian cemetery distribution in Goto Islands

Hisao KATO**、Toshiyuki NOMURA***

**キーワード**：潜伏キリシタン、五島列島、墓地、分布

## はじめに

これまで、著者らは五島列島で潜伏キリシタン墓地の基礎調査をおこない、10カ所以上の墓地を確認している。

2013年度から本年度まで、地域総合研究所の補助のもと、関連情報量も多く、研究の進展上有望な旧木の口墓所で基礎調査として測量、ヒアリング、陶磁器の製作時期などを検討した。

結果、旧大村領からの移住直後の18世紀末から19世紀初頭の典型的な潜伏キリシタン墓として、五島列島において、はじめて研究・報告することになった（加藤・野村ほか（2014）；野村・加藤ほか（2014））。さらに、旧木の口墓所における「石組墓」の元型に対する予察を行った（野村・加藤（2015））。これらの成果は、多角的なアプローチにより、潜伏キリシタン墓地の研究法の一つの典型的なモデルとして評価されている。

本研究ではさらに、五島列島内において潜伏キリシタンの墓制の地域変異・時期的変異を確認するために、以下の墓地の分布の基礎的調査を進めた。

## １．調査対象と方法

2.1～5は、2015年11月11日から12日にかけて野村がおこなった踏査の成果である。初日は、半泊地区在住の五島列島ファンクラブ濱口孝氏、２日目は五島カクレキリシタン研究会会長木口榮氏の案内で踏査をおこなった。

その他の墓所は、2013年８月に加藤が木口榮氏ほかの五島カクレキリシタン研究会会員諸氏とともにおこなった踏査によるものである。

踏査の方法は、先述した方の他、地元住民の方に案内を願い、現地の地形・形状・おおよその基数・現況を確認・撮影するとともに、国土地理院二万五千分の一地形図に概ねの位置を記録した。

## ２．調査結果

### ２．１．観音平墓所

五島市福江島戸岐の観音平集落墓地である。

集落は小河川に沿った谷あいに細長く展開しており、墓所は集落入口に当たる尾根東側の中腹に位置する。

最下段は方柱形カロート式墓となっており、地元住民であるH氏の話しによれば、本来の墓所に至る道が急坂であったために現在の位置に改葬したものであるという。

山道の途中に休憩のため棺を置く石台が設けられており興味深い。

旧墓所はさらに徒歩で５分ほど登った尾根中腹に南北方向で２列形成されており、そのうち数基は方柱形の個人墓である。石組み墓は確認できた範囲ではやや明瞭でないものも含め20基を数える。いずれも角礫を略方形に簡易に敷き並べたもので、一部では中央に小型の立石を設えるものもある。これら石組みは旧木の口墓所と非常に似ており、禁教期並びに禁教後の潜伏キリシタン・カクレキリシタンの墓であると見てよいであろう。機会があれば、実測を行い比較検討を試みたい。

### ２．２．大泊墓所

五島市福江島奥浦の大泊集落（膳柵）墓地である。浜泊・大泊の両湾に挟まれた狭隘な平地があり集落はその平地及び海岸沿いに散在する。

カトリック墓地は、教会墓地として1922年に造成され、コンバス司教によって祝別された。1974年の新墓地開設に伴い閉鎖された（浦頭カトリック教会1994）。

旧墓所は集落の東側につきだした半島の最高峰からやや南側の丘陵頂部に位置し、集落から山道を徒歩で20分ほどかかる。このため大部分は既に改葬され、集落後背地のもと教会のあった跡地に

* Received January 6, 2016
** 長崎ウエスレヤン大学　現代社会学部　Faculty of Contemporary Social Studies, Nagasaki Wesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan
*** 長崎ウエスレヤン大学　地域総合研究所客員研究員

移設されている。大部分は地方通有の方柱形墓石を持つカロート式の家族墓であり、墓石頭部に十字を浮彫りするものが多い。

旧墓地は最高所に中心十字架があり尾根伝いに南に向かいおよそ３段の墓域を形成する。

これらはすべてカトリック墓地であり、残された墓石も近代以降の十字浮き彫りを持つ伏碑型のものや方柱上に十字を掲げたものが多い。特に伏碑は半ば土や落ち葉に埋もれた状況である。概略60基以上の墓が営まれたものと考えられる。

カクレキリシタンの墓地はこの区画の東側、一段下がった区画に集約されている。概略30基前後の墓痕跡が観察された。

ここも改葬が進んでおり「墓倒し」後の墓石が区画隅に積み上げられている。これらを観察すると、大部分は方柱形で、表面には「個人名＋之墓」と刻まれており、「神式」で葬儀が行われたことを裏付けるものといえる。また、トタン製の簡易な屋根型工作物が取り除かれた状態で散見される。その他、改葬に伴うものか、葬送に伴うものかは判別できないが、一升瓶や湯飲みなども遺棄されており、これは前述のカトリック墓域では殆ど見られない現象である。このような廃棄物の痕跡に葬送、あるいは改葬儀礼の違いを見て取ることができる。

しかしながら当該墓地では、旧木の口墓所に見られるような石組み遺構は観察できず、潜伏期以前の墓所造営実態は明確にはならなかった。

### ２．３．半泊墓所

五島市戸岐半泊の墓所であるが、崎ノ浜（佐々間々）地区と半泊地区で所在地が異なる。半泊は小さな入江の谷部に、現在７戸の住宅が営まれる集落である。

現在の墓所は、間伏方面へと続く市道山側に隣接して方柱墓石を持つカロート式一族墓となっている。

佐々間々地区では、集落裏手の急斜面雑木林内の狭隘な土地に数基の墓が営まれており、頭部に十字を浮彫りした兜巾形方柱と十字架を持つカトリック墓がある。中に２基ほど石組み墓様の小型で散漫な角礫集積が観察された。目立った改葬痕は見当たらなかったが、現在では前述の一族墓に集約されているという。

新しい墓地裏手の山道を登ったところにも、旧墓所が展開する。主に尾根線上と尾根下の僅かな平地に営まれており、大部分は改葬済みであるとされる。方柱形の墓石及び、石製十字架が主な形態であり、ここでも方柱墓石には「墓倒し」が施されている。十字架には「天主教・降主千九百二十五年」等の墓碑銘も見られる。また、一箇所にトタン板製の屋根の痕跡も見られ、カクレキリシタンであった方々による神式の儀礼が行われたものと考えられる。

一箇所、海岸礫を約１メートル四方に敷き詰めた墓があったが、これは韓半島から渡ってきた人が埋葬されており、現在では無縁になっているとされている。

一方、半泊地区の古い墓所は、半泊分校（廃校）の北側、小河川に沿った尾根の先端部に営まれていたと伝えられるが、今回の踏査では痕跡を見つけることはできなかった。

当地域でも、明確な禁教期潜伏キリシタン墓地を見出すことはできなかった。

### ２．４．黒蔵墓所１

五島市増田の黒蔵の集落墓地である。黒蔵は、大村領から五島への寛政期の公式移住において、最初の移住地の一つとしてよく知られている。

尾根裾部に５ないし６段の等高線に沿った細長い区画が設けられている。現況は雑木林である。

大部分は北西側の平地に営まれる、黒蔵町内会営「松ノハル」墓地に改葬されており、当該墓所は画一的な方柱形墓石を持つカロート式の家族墓となっている。

このためか、廃絶されたカロート式墓跡や、個人墓である墓石の「墓倒し」も見受けられるが、大部分は石組み墓であって、推計100基を超える規模であり、其の形態も様々である。簡易な石敷きのもの、礫を３から５段に積み上げたもの、中央に小型の立石を持つものなどがあるほか、無銘ではあるものの自然石立石の一般的な近世墓形態のものも見受けられる。また石組み墓は平面形や略方形のものが多いが、一部にやや長方形の石組みもあり、規模から考えても長期にわたって営まれた墓地であることがわかる。

この他、墓碑銘から近世末期から近代初期と思われる新しい石材で作られた連名墓（夫婦墓か？）は現在も供献が行われており、墓所の移転から外れ「先祖の墓」として今も礼拝対象となっている。また、ここでもトタン製屋根型構造物が廃棄されており、神式葬が営まれたことが推察される。

当墓所は新旧の墓地形態が大規模に残存してお

り、今後の調査によって通時的な埋葬形態と葬送の様相と意識の変化が追える重要な墓所であることは間違いない。

### ２．５．黒蔵墓所２

五島市増田の黒蔵の集落墓地である。丘陵を隔てた東側にある黒蔵墓所１と比べて小規模な墓地である。

市道に沿った緩斜面に等高線とほぼ直交する墓道を基準にひな壇様の区画配置を設ける。比較的新しいカロート式墓地は其の下段に位置し、奥、すなわち高所に行くほど石組み墓が設けられてる。現状は雑木林である。

「松ノハル」墓地に改装されたためであろう、カロート式墓は廃絶され一部では「墓倒し」が見られる。

石組み墓は単純な礫敷から、他所では余り見られない切り石状の角礫を整然と積み上げたものまであり、多様性に富む。推計で40基程度の存在が見込まれる。

同じ黒蔵地区で墓所を２箇所に分けた理由は定かではないが、案内者によれば、墓所奥の里道は尾根線を迂回しつつ黒蔵１墓所に通じており、両者が関連を持つ墓所であったことには相違ないと思われる。

踏査を夕闇が迫った中で実施したため、明瞭な写真撮影ができず、かろうじて１カットのみの掲載となったことが悔やまれる。余り知られていない墓所であるため、再度詳細な踏査を行いたい。

### ２．６．浜泊墓所

五島市福江島奥浦の浜泊の集落墓地である。浜泊・奥浦の両湾に挟まれた緩やかな山の西側中腹を中心に集落を形成する。墓地は集落の西側の高台に尾根伝いに東に向かいおよそ３段の墓域を形成する。

一般に、五島列島では1900年前後になると盛んに教会墓地が、パリ外国宣教会の長崎司教によって祝別され、開かれる。しかしながら、浜泊の集落墓地は当時の聖職者の判断により、カトリック復帰前の洗礼の有効性が確かめられないことを理由に、司教によって祝別された教会墓地に移せなかった。同様に多くの潜伏期の先祖の墓は、祝別された教会墓地に移すことができなかった。近年、Ｅ氏らの強い思いによってようやく、主任神父によってこの墓地が祝福された。

さて、この墓地には、20基ほどの石組み墓と数基の大正期の砂岩の墓碑が確認できた。ある墓碑に刻まれた、死亡年代を確認したところ、天保13（1842）年８月死亡とあった。Ｅ氏の先祖からの言い伝えによると、「孫の代に当たる方が、先祖の埋葬位置を知っており、そこに石碑を建てた」とのことだった（加藤2011）。実際に、石碑の下には石組みが残っている。実際に、多くの石組み墓が正方形の区画に人頭大の石を組んでいる。これら石組みは旧木の口墓所と非常に似ており、潜伏期並びに禁教後のカトリックの墓であると見てよいであろう。

### ２．７．貝津墓所

五島市三井楽貝津の墓所であるが、カトリック教会墓として中心十字架が立てられているが、一方、神道祭、仏教の墓も混在する。概ねカトリック墓が中心となっている。貝津教会から西側に少々離れたところで、畑の中に所在する。旧墓域と新造・拡張された墓域がつながっており、前者は南側にある。貝津は小教区があったほど大きな集落であった。しかしながら、現在は過疎化が進み、貝津教会も三井楽教会の巡回教会になっている。

現在の墓域は、墓道が整備され、方柱墓石などを持つカロート式家族墓となっている。

旧墓域には、石組みの上に明治期の紀年銘の石碑を配置したもの、同様に十字架のある石碑を配置したものが数基みられる。その他数十基の石組み墓が確認できる。墓域が広く、石組みも残っており、大部分は改葬されていないと考えられる。実際に、数十センチの正方形の区画に人頭大の石を組んでいる。これら石組みは旧木の口墓所と非常に似ており、潜伏期並びに禁教後のカトリック・カクレキリシタンの墓であると見てよいであろう。当該墓所も、拡大的に継続的に使用され、石組み墓が数多く残存しており、今後の調査によって通時的な埋葬形態と信仰の様相と意識の変化が追える可能性の高い重要な墓所であることは間違いない。

## ３．まとめ

本基礎研究によって、以下の成果が得られた。

1　五島の教会集落およびカクレキリシタンに由来する集落・教会墓所には、数十センチの正方形の区画に人頭大の石を組むものが多く認められる。これら石組みは旧木の口墓所のものとよく似ている。

2　墓地移転が多くおこなわれており、潜伏期に遡ると考えられる墓は、連続してもちいられる集落墓所、広い墓域を持った墓所で確認できる。

3　２のような条件を備えた墓所は、黒蔵１・２、浜泊、貝津の４つである。

## おわりに

石組み墓に関しては、予備調査の2012年以来、調査を進めてきた旧木の口墓所を基準としているが、事例はそれに収まるものではなく、様々な形態が存在するとともに、禁教期以降の消長もまた各墓所で見て取れることが理解できた。さらなる調査を進め、潜伏キリシタン･カクレキリシタン･カトリックの墓制の消長を、「墓」と「墓所」の存在とそれに付随する様々な痕跡を持って物質文化研究として解明していきたい。

## 謝辞

本研究は、長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所2015B1および2013B2の補助を得て実施したものである。

調査地への案内を賜った五島列島ファンクラブ濱口孝氏、五島カクレキリシタン研究会会長木口榮氏、同会員諸氏。

記して感謝の意を表したい。

## 参照文献

浦頭カトリック教会　『浦頭小教区史』pp.157. 1994

加藤久雄『奥浦のキリスト教遺産群（V）』「浜泊の潜伏キリシタンからカトリック復帰初期の家族墓地」「島のひかり第４巻」2011,p299

加藤久雄・野村俊之・白濱聖子・藤本新之介『五島列島の潜伏キリシタン墓の研究（旧木の口墓所調査）』「長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所紀要12巻１号」 2014　長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所紀要

野村俊之・加藤久雄・白濱聖子・藤本新之介『潜伏キリシタン墓の造墓原理』「長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所紀要12巻1号」 2014　長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所紀要

野村俊之・加藤久雄『潜伏キリシタン墓・木の口墓所の概要』「2014年次日本島嶼学会要旨集」(96-110) 日本島嶼学会

加藤久雄・野村俊之・白濱聖子・藤本新之介『五島列島の潜伏キリシタン墓の研究２（旧木の口墓所調査）』「長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所紀要13巻１号」2015　長崎ウエスレヤン大学地域総合研究所

**調査対象墓所位置図（縮尺任意）**

(「五島列島のカクレキリシタン分布図」を再トレース改変長崎県教育委員会『長崎県文化財調査報告書第153集長崎県のカクレキリシタン』pp40 1999)

観音平　棺台石

観音平　１段目現況

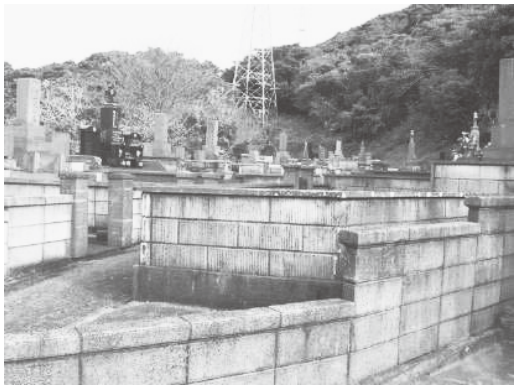
観音平　２段目現況

観音平　立石を持つ石組み

観音平　石組み墓１

観音平　石組み墓２

大泊墓所　遠景


大泊　現代墓所

大泊　中心十字架

大泊　改葬墓

大泊　カクレキリシタン墓域

大泊　カクレキリシタン改葬痕

大泊　カクレキリシタン儀礼跡

半泊　方柱墓

半泊　石組み墓

半泊　「墓倒し」跡

半泊　十字架墓石１

半泊　十字架墓石２

前ノハル　現代墓

黒蔵１　現状１

黒蔵１　現状２

黒蔵１　積石石組み墓

黒蔵１　立石墓

黒蔵２　現状

浜泊　巡検風景

浜泊　十字浮き彫り墓石

浜泊　墓石側面

浜泊　大正年間墓石

浜泊　瑪利亜（マリア）墓石

浜泊　天保再建墓石正面

浜泊　天保再建墓石側面

浜泊　石組み墓１

浜泊　石組み墓２

浜泊　斜面石組み墓

貝津墓所　全景

貝津墓所　石組み墓１

貝津墓所　石組み墓２

貝津墓所　石組み墓３

貝津墓所　石組み墓４

貝津墓所　中心十字架

貝津墓所　十字架墓石